

## 第3・4学年国語科学習指導案

日時 平成17年11月15日(火)  
第3校時  
場所 秋神小学校3・4年教室  
児童 3年生5名(男子2名、女子3名)  
4年生6名(男子2名、女子4名)  
指導者 橋本 八州馬

### < 3年生 >

#### 1. 単元名

場面の様子をそうぞうしながら読もう

「ちいちゃんのかげおくり」 あまん きみこ 作

#### 2. 単元の目標と身に付けたい力

「場面についてよりよく理解し、情景や登場人物の様子・心情について叙述に基づいて想像して、戦争時を描いた作品世界に迫る。

#### < 読む力 >

「ちいちゃんのかげおくり」の場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読む。(ウ)

読みとった内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いがあることに気づく。(エ)

書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読む。(カ)

#### 3. 単元(教材)について

この教材は、戦争の時代を舞台にした物語であり、長く教科書にとりあげられている。小学校で学ぶ戦争をあつかった物語文は、この作品と4年生で学ぶ「一つの花」の二つであるが、どちらも幼い子どもが主人公である。特に、「ちいちゃんのかげおくり」は、ちいちゃんがおさないことやかげおくりという遊びが印象的であるので、児童は主人公の心情に同化して、作品を読むことができる。

この作品は、全体が5つの場面からなる。1から4までの場面は、戦争の時代。5は、戦後何十年か経った町である。1と4はかげおくり、2, 3は空襲の夜と焼かれてしまった町で一人になってしまうちいちゃんの様子が書かれている。1と4のかげおくりは、家族みんなでした現実のかげおくりとちいちゃんがひとりでするかげおくりが対比されている。空の様子もかげおくりの場面は青い空、明るい光、焼け跡での孤独のなかでのちいちゃんの場面は、暗い夜、くもった空というようにかき分けられている。これらを場面毎にとらえながら読み深めながら、戦争の悲しさを強く感じ取らせていきたい。

また、心情を読みとるための手がかりとして、会話文そのものとその前後に着目するなど、今後の物語文を読みとるための手段を身に付けていきたい。

#### 4. 児童について

男子2名、女子3名の少人数複式学級である。全般に学習についての意欲はあり、自分の考えを進んで発表することができる。読んで理解する力、自分の考えを話す力があり、

リーダーを中心に自分たちで学習を進めることはできる。しかし、自分の考えを言うだけでなかなか友達の考えを聞いて深めようという姿勢は弱く、つまらないことにとらわれて集中力が長続きしないことがあった。相手の意見に対して、自分の考えを言うことは、できるが、自分の意見に固執する傾向があり、互いの意見を聞き、深め合うというところまではなかなか到達しなかったが少しずつ深め合うという姿勢はできつつある。

中で、リーダーのY子は、相手の意見を聞いて自分の考えを深めることができるし、一生懸命進めようとしている。集中力も長続きするようになってきた。K男は、積極的に発言できるし、相手の意見を受けて自分の考えを言える。N女は、ひらめきはよく、自分の考えを工夫して相手に伝えようとしている。だんだん簡潔な言い方が身につき、相手も発言内容を理解しやすくなってきた。N男は、理解はしているが、どちらかと言えば進んで自分の考えを言おうとしないので、意図的な指名が必要である。考えをなかなかすらすら話せないで、待つたり、言葉を補足することもひつようである。R女は、話す意欲もあり、自分なりの考えを持っているが、自分の考えと人の考えの違いを明確につかむことがまだ十分できないし、話そうとするとすらすら言葉が出てこないところがある。うまく相手に伝わらないときは、教師側で、言葉を補ったり、意味づけたりしている。

## < 4年生 >

### 1. 単元名

場面をくらべて読もう

「一つの花」今西 祐行 作

### 2. 単元の目標

キーワードに気をつける読み方を知り、場面意識をもって登場人物の様子や気持ちを読み取って、戦争時の親子を描いた作品世界に迫る。

#### < 読む >

登場人物と場面の様子を、作品の中の大事な言葉に気をつけて想像しながら読む。(ウ)  
題名にこめられた作者の思いについて自分なりの考えをもち、友達の考えと比べる。(エ)  
書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読む(カ)

### 3. 単元(教材)について

・3年教材のちいちゃんのかげおくりと同じ時代をあつかった物語である。戦時下の食料難のようすや出征するお父さん、主人公は幼い少女であることなど共通するところがあり児童は、ゆみ子の無邪気さに引き込まれる。ただし、人物の心情は、母や父の方が中心であるので読み深めるために配慮が必要である。

場面については、一行空きで3つに分けられている。1場面は、「一つだけ」がゆみ子の初めてはっきり覚えた言葉であるという書き出しから、戦時下の食料難の状況が叙述されている。そして、自分の分を「ひとつだけよ」と言って分け与える母の愛が書かれている。

2場面は、出征することになった父と見送る母とゆみ子の様子が、他の見送りの人の様子と対比されて書かれており、戦争へ行きたくない、行かせたくないという心情が感じ取れる。そして、題名の由来の「一つの花」が描かれる。その描写やそれを見つめながら何も言わずに行ってしまう父から、花に込めた願いを感じ取らせたい。

3場面は、戦後10年経っての成長したゆみ子、父の願いのように明るくたくましいゆみ子の姿がえがかれている。たくさんのコスモスの花で包まれるゆみ子の家。場面を、「一つ・・・」「花」に着目して対比することで平和の大切さや戦争の時代でも人間の美しい心を失わないで生きたいという作者の願いを感じ取らせていきたい。

#### 4. 児童について

男子2名、女子4名。・比較的進んで発表しようとする意欲はある。自分の考えもわかりやすく話せる子がいる。特にK子、A子は、読みとる力もあり、人物の心情などを根拠を抑えてつかむことができる。Y子も力はあるが、じっくりということが苦手で、思いつくままにつぶやきそのうちに自分の考えがなんとかまとまってくるという特徴があり、文章に立ち返るといことは苦手である。S子すぐには、考えがまとまらないが、友達の意見を聞きながら、自分の考えと比べて深めることができる。A男人物の心情を想像するとなるとやや苦手だが、表現の細かいところまで比べて違いを見つけることができる。

ただし、リーダーのA子は、進め方はわかるが、ときどき指示の言葉がいい加減になったり、時間を意識しててきぱき進められないことがある。また、Y子のつぶやきやR男の奇声に妨げられて話し合いのテンポが遅くなったり、集中力が切れたりすることがあって、深めきれないことがある。よい学習姿勢を意識させたり、その都度指導したりしているが、まだ、定着させ切れていない。

R児は、一斉の授業の中で話し合いや読み取りの活動は苦手である。しかし、音読は、直感的に人物になりきったような読み方をすることができる。集中力が持続せずうまく活動させられないが、読む、書くという活動を集中して取り組めるように別の課題を用意したり、事前に今日の学習の手順をつかませたりするなど、事前にできる手だては打ち、集中した学習ができるように取り組んでいる。

## 本校研究主題との関わり

### 仲間とともに考え伝え高め合う子どもの育成

#### 国語の複式授業を通して

#### 研究内容1 複式の特性を生かした単位時間の指導の工夫に関わって

心情や様子を読みとるための手だてを示し、身に付けさせていく。

- ・各場面ごとに「いつ(時)」「どこ(場所)」「だれ(人物)」を最初に確認する
- ・会話の前後、ダッシュ、文末、
- ・場面を対比し、似ていること違うことをつかむ

ノートに何を書くか、どのように書くかを示したり、個別に指導をして、使い方を定着させる。

4年生は場面毎の読みとりで場面の初めから5分間視写させることで、細部の叙述に気づくことと書く力の向上をねらっていく。この活動をいれることで、3年生との「ずらし」をうみだし教師の適切な出場をつくり出したい。

3年生は、教科書のコピーを用意し、サイドラインを引かせ書き込みをさせる。黒板に大判コピーを用意し、話し合いの効率化をはかりたい。

まとめの音読で、役割読みや小グループでの読みあいをし、読みとったことの理解をふかめたい。

教師の出場として、話し合いの場では、できるだけその学年について、言葉をおぎなったり、より深まるよう方向づけをする。児童が何を書き込んでいるかつかみ、意図的指名などに生かす。R児が自分の課題に集中して取り組むようにする。ふりかえりで、具体的に価値付け、意味づけをする。児童のよい意見をすかさず捉え認める・・・など

態度の評価とともに内容に関わる具体的評価をとりいれていきたい。今のところ、児童が進んでできるまでに至っていないので、機をとらえて意味づけ、価値付けていきたい。

## 研究内容2

実態、めざす姿、指導、援助、変容などを記録した個人カルテの活用

各時間ごとに目標にてらして特に支援が必要な児童の予想されるつまづきやそのための支援、意図的に生かしたい児童の特性をための手立てなどを事前に捉えておくことや、予想外の反応や活躍などを記録し蓄積することで、単元の指導や今後の指導に生かせるようにしていきたい。